

笑顔を咲かせよう♪

ちゅーりっぷ 通信

平成28年

3

月号

いきいき暮らす、
あの人に会いたい

第16回

経済アナリスト、コレクター

もり なが たく ろう

森永卓郎さん

1957年(昭和32年)東京生まれ。東京大学経済学部卒業後、日本専売公社に入社。経済企画庁総合計画局、三和総合研究所主席研究員などを経て、現在は獨協大学経済学部教授。テレビやラジオに多数出演し、経済をわかりやすく解説することで人気を博す。日本有数のコレクターとしても知られ、2014年、ミニカーからペットボトルキャップ、空き缶など数多くのコレクションを集めた「B宝館」をオープンさせた。「庶民は知らないデフレの真実」(角川SSC新書)など多くの著書がある。

所沢市・B宝館にて

このB宝館、大変なコレクションの数ですが、ど、いつくらいから集め始めたのですか。

コレクションは9歳のときから始まっていますね。というのも、わたしの父が毎日新聞の新聞記者で、9歳のときにオーストリアのウィーンの支局長になることになって、ついに行きましたよ。

わたしは、小学校1年生のときもアメリカのボストンに行っていたんですけども、ウィーンというのはすごく閉鎖的な街でしたね、よそものをまったく受け入れないんです。わたしが行った頃はまだリメンバーパールハーバーという記憶や感情が残っているくらいの時代だった。しかも、いまみたいに日本人学校なんかはない時代ですから、現地の公立小学校に入らざるを得なくて、そこに入っても友だちがひとりもできなかったんです。

日本で暮らしているときは都営アパートに住んでいて、たぶん平均よりちょっと下くらいの暮らしだったんですけど、当時はいい時代で、海外に赴任すると、なんと日本と海外の給料が二重にもらえたんですよ。そういうわけで、親が急に金持ちになったんですね。

そういう環境の変化もある中で、友だちもできず、だいたいウィーンという街は寒くて外でなんか遊べませんから、外に遊びにもいけないわたしを不憫に思ったんでしょうね。それまで誕生日とクリスマスにしか買ってもらえなかったミニカーを、今度

はほぼ毎日買ってくれるようになったんです。それがコレクションの出発点です。



当時は日本でもミニカーがブームでしたけど、その頃外国でも高かったのではないですか。

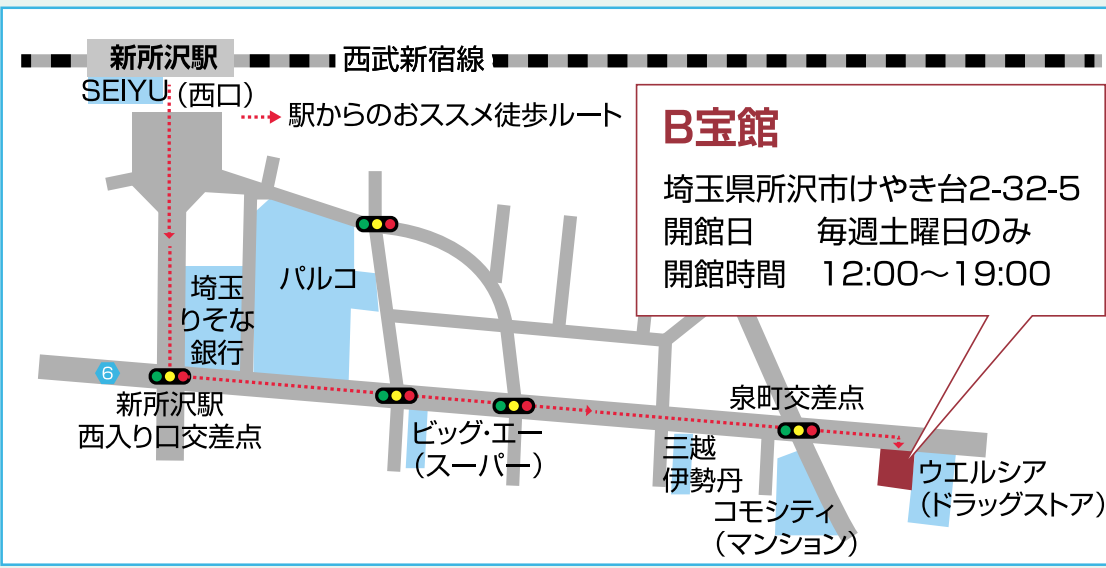
いいえ、当時のミニカーはヨーロッパが主産国だったので、安かったんです。日本の半額くらいで買えたんですよ。日本製のトミカとか、まだない時代ですね。

わたしが集めていたのは、43分の1スケールでいうと、ディンキーとか、コーギーとかですね。どうちもイギリスのメーカーですけど、当時はドイツもフランスもイタリアもみんなミニカー作っている時代だったんです。あと小スケールでは、マッチボックスとハスキーというモデルを集めていました。

それがどんどん増えていった頃、毎日新聞のウィーン支局が廃止になったんです。で、その次はスイスのジュネーブに転動になって、やはりついていくわけですけど、それが人生最大の挫折でしたね。わたしは最初はポストンだから英語だったんです。そしてウィーンはドイツ語で、そこから今度はジュネーブというのはフランス語になるわけで、もう最悪なんです(笑)。誰にも言葉を教わるわけではないんですね。いきなり現地の小学校に入



経済アナリストとしてのわかりやすい経済の解説書から趣味のコレクション本まで、数多い著作がある。



B宝館

埼玉県所沢市けやき台2-32-5
開館日 毎週土曜日のみ
開館時間 12:00~19:00

B宝館は、西武新宿線・新所沢駅から徒歩8分。現在のところ毎週土曜12時~19時のみオープン。入場料は800円。

れられちゃうんですよ。だから転校して最初の半年間は言葉がしゃべれないから地獄なんです。で、結局スイスでもミニカーを買って帰って、日本に帰ってくる頃には、もう10000台超えています。当時そんなにミニカー持っている子どもはいなかったでしょうね。

小学校5年生で帰国して、6年生からまた学校に行くようになったんですけど、日本の小学校は3年間しか行ってなくて。あとは全部、ポストンとウィーンとジュネーブで違う言葉をしゃべり、違う小学校に行っていた。だから日本の小学校の通信簿は1と2ばかりですよ(笑)。

それでも帰国されたあとは都立の名門、戸山高校から東大へ進学されましたね。

小学校で帰国したときは、ほとんど日本語もしゃべれないくらい状態で、日常会話できませんでしたけど、難しいことはなにもわからないという子どもでした。基礎知識がようやく人並みになったのは大学入ってからで、大学に入って初めて徳川家康と忠臣蔵を知ったんです(笑)。

それはともかく、中学高校の6年間は、コレクションにとっては暗黒時代で、その間はギターやカメラや女の子に夢中でした。でも大学1年生のときに、同級生でミニカー集めているやつがいて、それでまた振り返りました。大学4年生のときにアメリカの外周をぐるっと回る旅に出たんです。そのときコカ・コーラにいろんな缶があるんだってことを発見して、特にカフェインレスのコカ・コーラって日本になかったんですけど、その缶が金色で、おもしろいなと集めているうちに缶のコレクション

意味もない符号なんです。なのに、いま、なんと100人以上もの「経済アナリスト」がいるんですよ。不思議ですね。いったい彼らはなにをやっているんでしょう(笑)。

しかし経済分析のプロとして筋の通った発言や著作を発表されてきました。

わたしが唯一ずっと守り抜いてきたのが、金に金を稼がせないということなんです。どっつうことかということ、わたしみたいな仕事をしていると、いろんな情報が入ってきますし、すごく誘惑も多いんです。たとえばインサイダー取引をすれば、一晩で何億、何十億って稼げちゃうこともあるわけです。つまり、額に汗を流して働いてお金を稼ぐのではなく、金融の仕組みを使って、金が金を稼ぐという仕組みに乗っかることですね。しかし、わたしはやりたくない。いったんそうしたことには手を染めると、もう抜けられなくなっちゃうんです。そうしたことには手を染めたかどうかは、すぐにわかるんですよ。プールつきの豪邸とか、ウオーターフロントのタワーマンションのペントハウスに住んでフェラーリに乗っているようなやつは、だいたいろくなコトはしてなご。

大金を稼ぐことにこだわるのは、やっぱりそのひとの人生観が貧しいからなんだと思うんです。でも、人生には楽しいことって、いっぱいあるんですよ。その楽しいことさえ見つければ、お金なんか、そんなになくてもとっても幸せなんです。たとえば、わたしが集めているペットボトルのふた。これを集めるのは、お金なんてまったくかからないんですよ。でもこれをずっと系統的に集めて

が始まってしまいました。

コレクションは、うちのカミサンと結婚したときはミニカーとコーラの缶だけだったんですけど、1996年かな、テレビ神奈川で、あのプリキのおもちゃ博物館館長の北原照久さんが司会している番組で、わたしが経済コーナー担当と一緒にやったことがあるんです。すると、北原さんが毎週わけのわからないものを持ってくるんですよ。これ、いいだろう、かわいいだろう、とか自慢されているうちに、だんだん北原菌に感染してしまってますね(笑)、それで爆発的にコレクションの種類と数が増えていったんですよ。

いま、このB宝館では、コレクションの種類で60種類以上、数では11万点を超えました。この数はけっこう多いんですよ。あの天下の東京国立博物館の収蔵点数が10万点なんです。自身はともかくとして(笑)、数はB宝館の方が多い。

コレクションの話ばかりになってしまいました。が、もともと気鋭の経済アナリストです。

その経済アナリストという肩書きですけど、先ほどのテレビ神奈川の番組がきっかけなんです。たしかに、わたしはもともとシンクタンクの研究員だったんですけど、番組に出るときに所属しているシンクタンクの名前は使うなということになって、肩書きなしで出演しようとしたところ、番組のディレクターが、日本は肩書き社会だから、なにか肩書きがないとダメにならないと仰いました。それでそのディレクターがひねり出した。経済アナリストという肩書きを使うようになったんです。だから経済アナリストなんて、もともとの

いくと、ものすごく美しいコレクションになるんです。しかもね、集めている人たちは、自分のコレクションをホームページにアップするでしょう。すると、世界中の人から交換してくれとメールがきて、ほんとに国際的に交流が始まるんです。

国際派のエコノミストとかいう連中だって実際は英米しか見てない。でもペットボトルのふたを集めている人たちは、ほんとにグローバルなんです。中東とも南米ともアフリカとも毎日交流して、すごく豊かな暮らしができるんです。

このB宝館という名前も、「B級」で「ピンポイント」で「おバカ」で、でも「ビューティフル」というBなんです。そういう思いを込めて作りました。

お金がなくても体力がなくても、人生を楽しむ術は無限にありますよ。こないだもわたし、短歌を詠んでいるという女性と会ったんですけど、影響を受けてさっそく恋の歌を詠んでみたりしました。返歌はなかったけど(笑)。でも創造の喜びというのは大きいですよ。俳句ひとつ、メロディひとつでも作って後世に残ればうれしいし、残らなくても幸せですよ。



遠い思い出、
なつかしい
歌



「春よ来い」

この季節の童謡は、ほのぼのとして温もりのある歌が多いようです。春という季節がもつ力のせいでしょうか。思わず口ずさみたくなってきますね。

作詞
相馬御風

作曲
弘田龍太郎

春よ来い 早く来い

あるきはじめた みいちゃんが

赤い鼻緒の じょじょはいて

おんもへ出たいと 待っている

春よ来い 早く来い

おうちのまえの 桃の木の

つぼみもみんな ふくらんで

はよ咲きたいと 待っている



歌のこぼれ話

作曲の弘田龍太郎は、『靴が鳴る』や『雀の学校』などで知られる人。作詞は、「カチューシャの唄」や早稲田大学の校歌「都の西北」を手がけた相馬御風。歌詞に登場する「みいちゃん」とは、相馬御風の娘、文字がモデルとされています。じょじょとは草履、おんもは外のことで、言葉を覚えはじめた幼児の感覚が伝わってくるようですね。

JASRAC 出1608618-301

すこやか生活
ワンポイント
レッスン



新しい趣味を見つけよう

年齢を重ねて新しいことを学んだりするのは、おっくうなものでも、新しい楽しみとなると、話は別。わくわくしてきますね。今年は気持ちを若返らせる新しい趣味、見つけてみませんか。

気

持ちが若々しい人は、見かけも若々しく、いつまでも健康でいることが多いようです。いくつになっても前向きで、若々しい人ほど、さまざまな趣味と上手につきあっています。

たとえばカメラ。年をとってから難しい機械の操作を覚えるのは大変ですが、それが好きなカメラとなると楽しく覚えらるというのが、趣味のいいところ。また、カメラの操作を楽しく覚えることで、知らず知らず難しい機械の操作を学んでいるのと同じことをしているわけですから、趣味は脳を活性化させるうえにも、とてもよい効果があるといえるでしょう。

カメラだけでなく、囲碁・将棋やチェス、英国では趣味の王様といわれている切手収集など、この春からあなたも新しい趣味を始めてみてはいかがでしょう。

趣味なんてあまりないという方でも、子どもの頃好きだったものを



思い出してみてください。ぬり絵や百人首、メンコや模型造りなど、楽しかった思い出は大人になって再開すると、うまく始められたり、思いがけず奥深い発見があったりするかもしれません。盆栽なども最近ではミニ盆栽などが数多く作られ、窓辺などにおける小さなものも人気があるようです。

ぐるりとあたりを見回せば、趣味をもって楽しく暮らしている人はたくさんいます。あなたも、あなただけの趣味を始めてみませんか。

介護と
暮らしの
アイデア箱

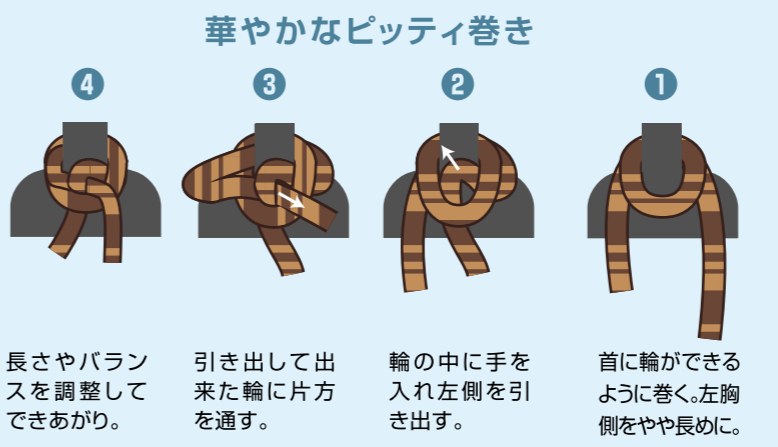


おしゃれを楽しむ②

今回はマフラーやショールを使ったおしゃれを紹介しましょう。男性にも手軽にチャレンジできて、しかも効果は抜群です。

最

近テレビなどでは、男性タレントでもおしゃれなショールを首に巻いている姿をよく見かけます。首元にほどよいボリューム感を出しておしゃれに見えるこの巻き方は、「ピッティ巻き」(ミラノ巻きともいいます)であることが多いよ



うで、ここ数年、男性のあいだでも女性のあいだでも、ちょっとしたブームになっています。これはもともとおしゃれな装いで評判のあるイタリア人男性のあいだで流行になったもので、いまでは男性のショールの巻き方としては定番のスタイルになりました。

別にマフラーやショールの巻き方に決まりがあるわけではありませんが、いつもの巻き方を変えて、このピッティ巻きにしてみると、薄手のマフラーや大きめのショールにぴったりなニュアンスのある巻き方になり、ぐっとおしゃれな印象になります。

薄手の素材のものは首元でへたってしまうがちですが、このピッティ巻きにすると、ほどよいボリュームを作りやすく、ちょうどよい首元のアクセントになりますね。

これから春先にかけては、薄手のマフラーやショールが活躍する季節。おしゃれで華やかにみえるピッティ巻きを、あなたも試してみてください。

今月の
クイズ

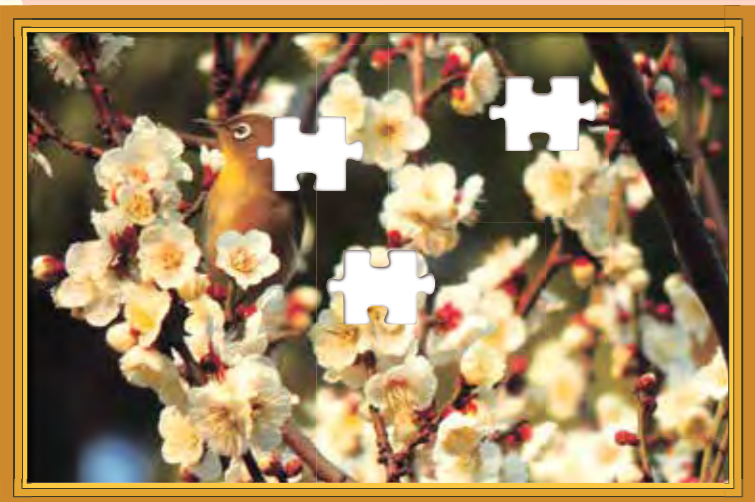


春のかけらを探してみよう！

春のジグソー

ピースをはめて写真を完成させましょう。使わないピースが2枚あります。

A～Hのうち使わないピースはどれでしょう？



●野坂昭如さんの悲報に触れた少し後に奥様の陽子さんのインタビュ어가載った「ちゅーりっぷ通信」が届き、驚きました。読み進むにつれニュースでは語られなかったりハビリ生活の心温まる掛け合いが何とも素晴らしい、陽子さんの明るさと前向きさに昭如さんも励まされて旅立つことができたのではと胸を熱くしました。心よりお悔やみ申し上げるとともに、天からも陽子さんを見守っている方がいることを忘れずにお過ごしく下さい。(保土ヶ谷区 M様ご家族様)

●まず野坂昭如さんのご冥福をお祈りいたします。才気あふれるご夫君の多方面での活躍と病を得てからの生活をバックアップされた陽子さん、お疲れ様でした。書籍「リハビリ・ダンディ」の表紙の写真より「ちゅーりっぷ通信」のお顔の方がきれいでお若く見えます。充実感もたらしている表情だと感じております。悲しいとは思いますが、おからだご自愛のうえ、また新たな暮らしを歩まれますように。(戸塚区 F様ご家族様)

☆野坂昭如さんのご逝去を悼むとともに、陽子さんの姿勢をご自分の介護にいかしますというお便りを多数いただきました。昭如さんをご担当されていた出版社の方からも陽子さんのインタビュ어를通じて、つい最近の昭如さんに会えたようでとてもよかったですというお電話もありました。ここにあらためてご冥福をお祈りいたします。

●森永卓郎さんは大好きなコレクションを集めたB宝館で、本当に楽しそうにニコニコされている様子がとても印象的でした。埼玉は遠く感じますが、横浜からだと東急東横線の小手指行きに乗れば西武池袋線直通なので、あつという間なんです。懐かしいおもちゃやグッズとの再会、春のお出かけにオススメの場所です。

●ちゅーりっぷ通信(平成26年1月号)の表紙に登場していた詩人の加島祥造さんが、昨年12月25日にお亡くなりになりました。信州・伊那谷で、横浜の思い出を懐かしそうに語られていたお顔を思い出します。ご冥福をお祈りいたします。

皆さまからのお便りをお待ちしています。

編集部では、ご意見、ご感想、とりあげて欲しいテーマなど皆さまからのお便りをお待ちしています。お便りをくださった方の中から、**抽選で5名様に薄型ルーペをプレゼント**いたします。ふるってご応募ください。

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス4階
横浜市福祉サービス協会「ちゅーりっぷ通信」編集部



クイズの答え

BとH

今月の協会ニュース

アンケートのご協力ありがとうございました。

平成26年「新規お客様アンケート」報告
「居宅介護支援」編

ご契約3か月のお客様を対象に、ケアマネジャーの「接遇」や「ケアプラン」についてのアンケートのご協力をお願いしております。

ケアマネジャーの接遇については、「礼儀正しく丁寧である」と良い評価を頂戴しました。「よく話を聞いてくれる」「苦しいときは励まし、うれしいときは一緒に喜んでくれる」「ちょっとした疑問にも、十分納得できるように説明してくれた」などケアマネジャーの仕事ぶりに対しての感想もいただきました。

他方、「もう少しゆっくり話してほしい」とのご意見もいただきました。また、「ケアプラン」についての説明や内容については「わかったような、わからなかったような」とか、実際にサービスを利用してみると、「じっくりしなかつたりする」とのお声もいくつかございました。サービスを利用される中で、様々な不安や疑問を感じられることがありと思えます。その際は遠慮なく担当のケアマネジャーにご相談ください。

ケアマネジャーはこれからおお客様とのコミュニケーションを大切に、丁寧な説明を心がけてまいります。

介護者のための相談電話

介護に疲れたとき…**ほっとライン**

介護に疲れて行き詰まったり、不安になったりしたとき、ひとりで悩まないで、ほっとひと息ついてみませんか?

045-450-3194

「お客様相談室」をご利用ください

「お客様相談室」では、事業やサービスについてのご意見やご要望をお受けしています。まずはお気軽にお電話ください。

0120-701-782 FAX 045-450-3158

※受付は年末年始および祝祭日を除く月曜～金曜の8:45～12:00 / 13:00～17:15まで。ご相談の秘密は厳守いたします。

協会の理念

- お客様の満足
- 人を大切にし共に育ちあう企業風土
- 公正で透明感のある企業倫理

社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会

〒221-0055 神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス4階

045-450-3110 FAX 045-450-3115

ホームページ <http://www.hama-wel.or.jp/>



古紙80%配合率80%再生紙を使用